

主 催：愛媛県信用漁業協同組合連合会

第 2 2 回 「えひめ水産業WEBセミナー」

日 時：令和5年11月21日（火） 15：00～16：30

次 第

1. 開会
2. 講演「担い手不足、次世代への継承について」

中小企業診断士 高木 佑典 氏

3. 閉会

留意事項

1. 受講中は、「カメラ OFF、マイク OFF」にして頂きますようお願い致します。
2. 通信環境によっては、**映像及び音声**が途切れる場合があります。
3. 受講後は、**アンケート**にご協力願います。

※当会ホームページ（オンラインセミナー）に、アンケートの入力ボタンをご準備しております。

4. **本セミナーの受講内容は録画しており、見逃した方に向けて、後日当会ホームページにて配信する予定ですので、ご了承ください。**



浜鯛長（はまたいちょう）

●浜鯛長

愛媛県JFマリンバンクのイメージキャラクター。
愛媛県では瀬戸内の鯛、愛鯛といった名称やキャッチコピーで赤く綺麗な鯛を生産していますので、そこから生まれたキャラクター。

●特 徴

漁師を引っ張る浜の隊長であり、鯛の王様という意味の名称。
漁師の前掛けをイメージした腰巻にある「喜」という文字は、皆様に消費していただいた魚の骨の絵です。

担い手不足、次世代への承継について

令和 5 年 11 月 21 日

愛媛県中小企業診断士協会
中小企業診断士 高木 佑典

自己紹介

高木 佑典(たかぎゆうすけ)

1980年(昭和55年) 西条市生まれ(松山育ち)

県内大学を卒業後、薬品会社、教育関連会社、飲食店勤務を経て、JAグループに就職

2021年に中小企業診断士の資格を取得

2022年に転職し、現在は会計事務所に所属

県内中小企業の経理指導、決算書・経営計画書の策定支援、会社設立・M&A支援などコンサルティング業務を担当している。

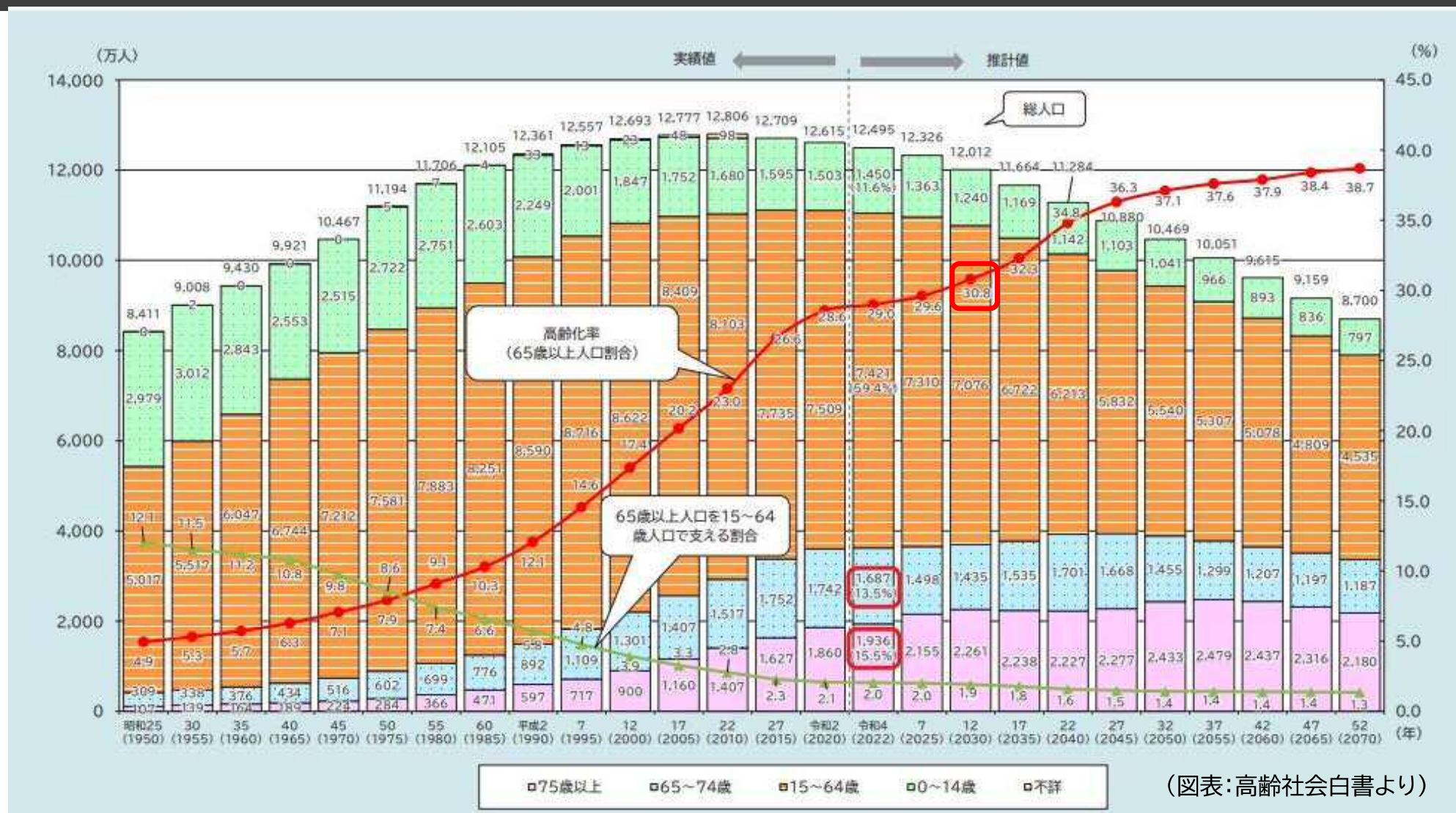


本日の内容

- I. 深刻化する人手不足の問題
- II. 水産業における担い手確保の取り組み
- III. 安心して暮らせる漁村づくり
- IV. 次世代への継承とビジョン
- V. まとめ

I . 深刻化する人手不足の問題

1. 労働力人口の減少、高齢化



(図表: 高齢社会白書より)

2. 人手不足が顕著な業種

正社員の人手不足割合（上位 10 業種）

		（％）			
		2020年4月	2021年4月	2022年4月	
1	情報サービス	44.6	↑ 54.1	↑ 64.6	
2	メンテナンス・警備・検査	46.5	↑ 55.6	↑ 60.1	
3	建設	48.2	↑ 54.5	↑ 59.4	
4	自動車・同部品小売	33.0	↑ 50.0	↑ 58.4	
5	人材派遣・紹介	26.9	↑ 37.1	↑ 58.0	
6	飲食店	14.3	↑ 27.6	↑ 56.9	
7	農・林・水産	48.2	↑ 53.5	↑ 55.7	
8	放送	40.0	↑ 46.7	↑ 55.6	
9	旅館・ホテル	12.5	↑ 23.5	↑ 52.4	
10	運輸・倉庫	41.1	↑ 42.3	↑ 52.2	

（図表：帝国データバンク 人手不足に対する企業の動向調査 2022年4月 より）

3. 漁業就業者の動向①

○ 漁業就業者は一貫して減少傾向

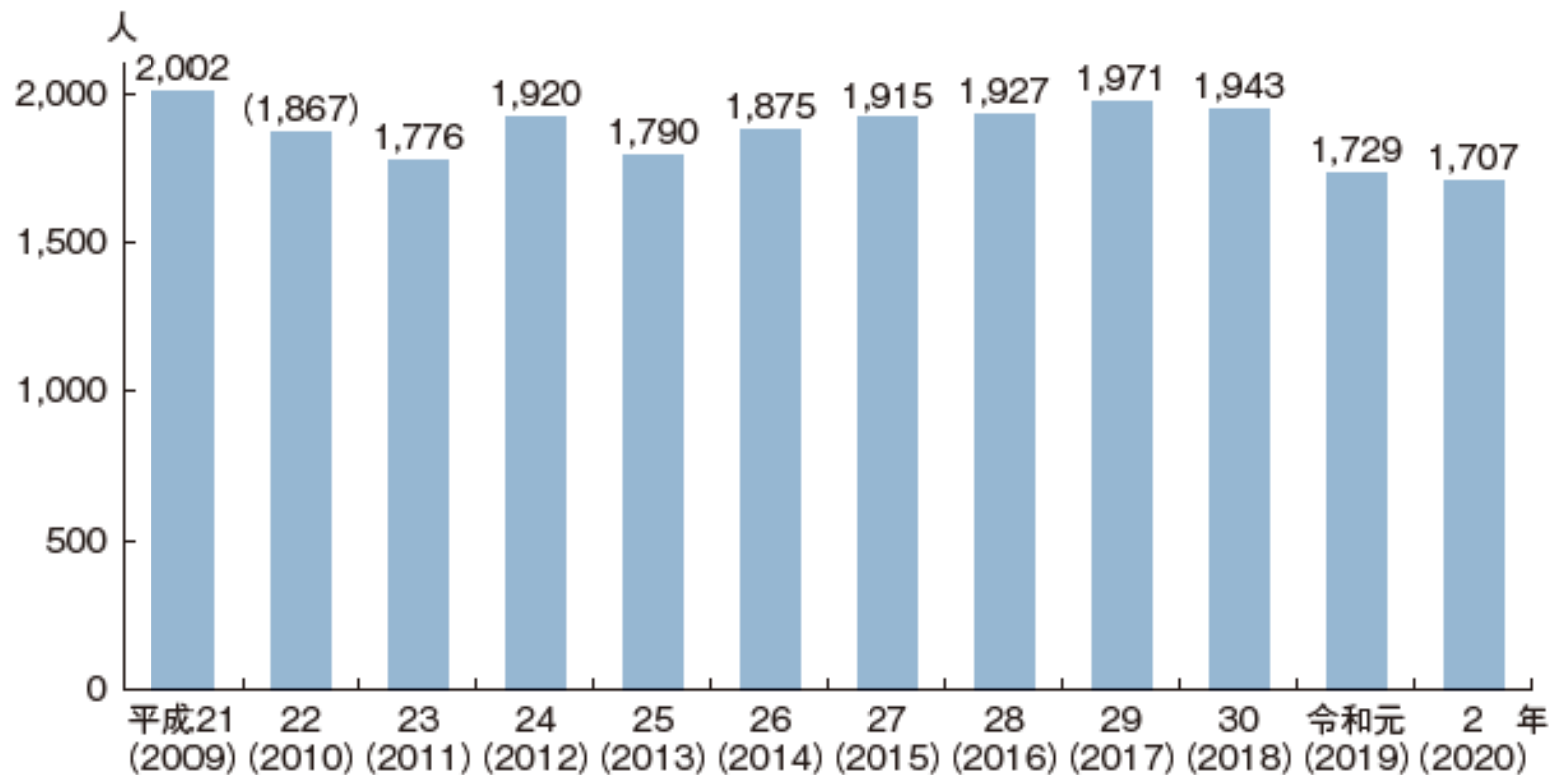
○ 2020年 13万5,660人(前年比6.3%減)



(図表: 令和4年度版水産白書より)

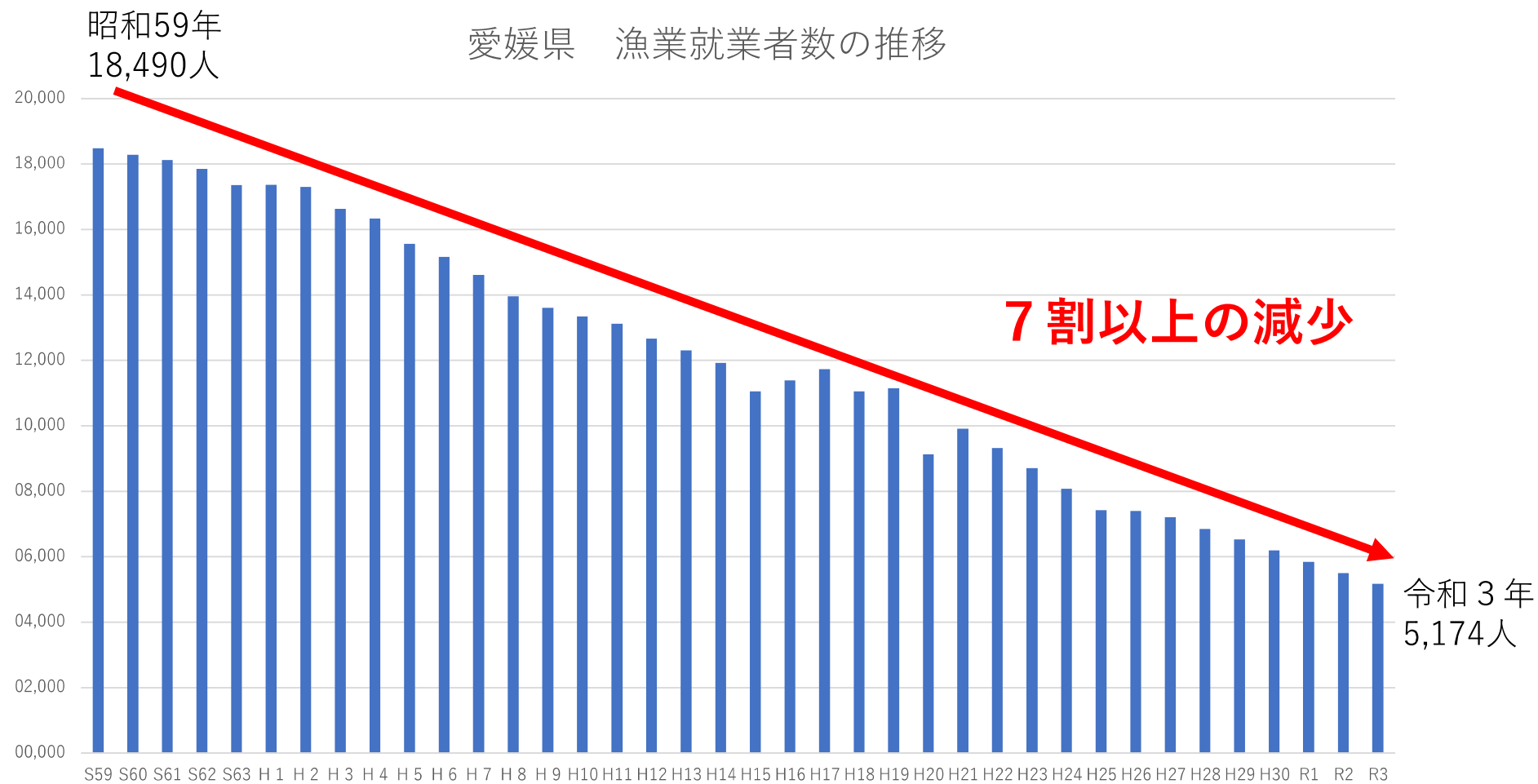
3. 漁業就業者の動向②

- 新規就業者も近年減少傾向
- 新規就業者のうち39歳以下がおおむね7割



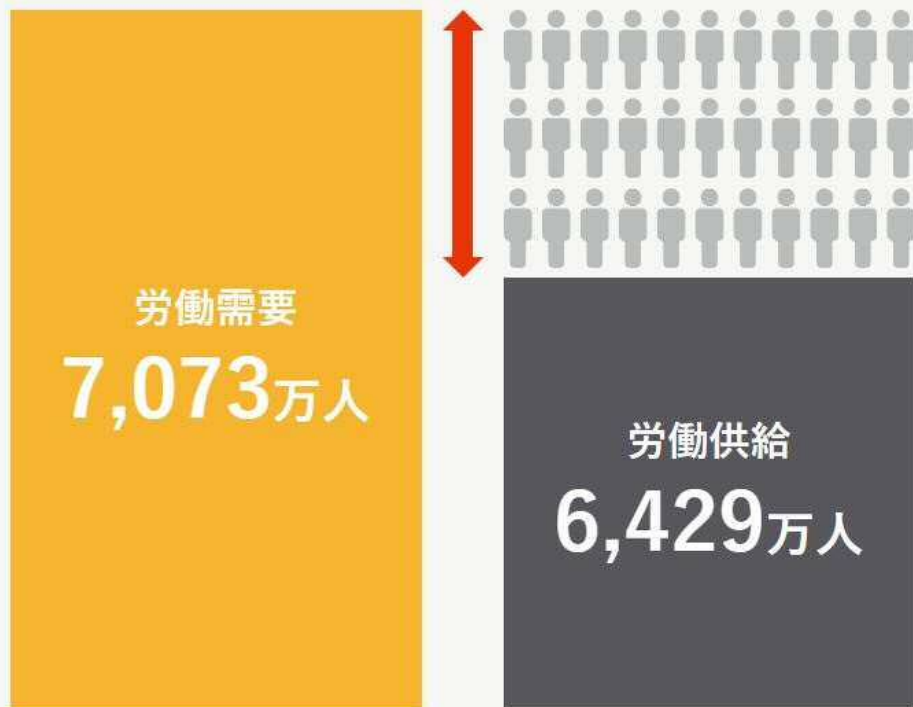
(図表: 令和4年度版水産白書より)

3. 漁業就業者の動向③



(図表:愛媛農林水産統計年報、水産局調べ)

4. 2030年問題



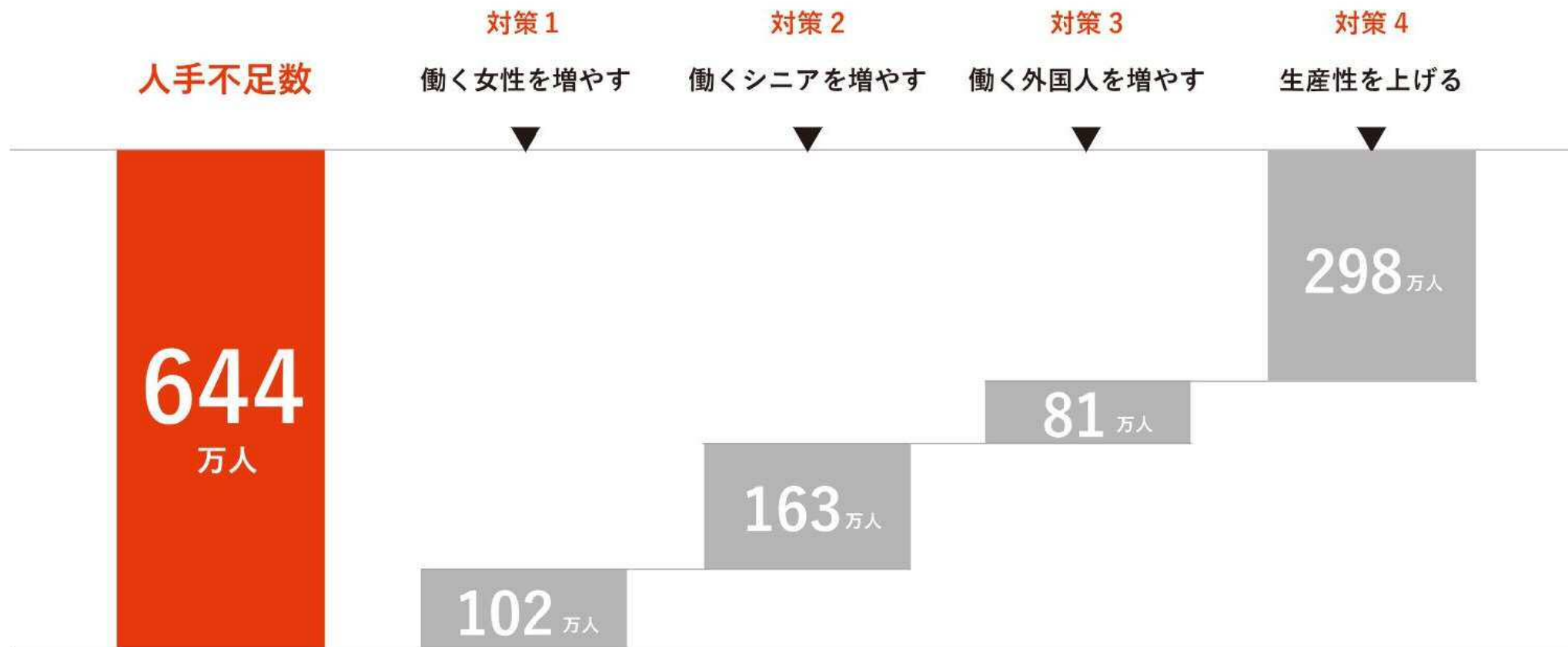
※失業者61万人を除く

2030年、人手は 644万人不足する

推計の結果、2030年には、7,073万人の労働需要に対し、6,429万人の労働供給しか見込めず、「644万人の人手不足」となることが分かりました。

産業別において、特に大きな不足が予測されるのは、サービス業、医療・福祉業など、現在も人手不足に苦しむ業種であることが分かりました。これらの業種は、少子高齢化やサービス産業化の進展により今後も大きな需要の伸びが予測され、労働供給の伸びがそれに追いつかないと考えられます。

5. 人手不足への対応方策



(図表:株式会社パーソナル研究所 労働市場の未来推計2030より) 11

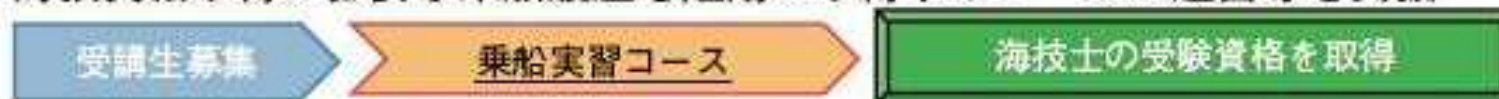
Ⅱ. 水産業における担い手確保の取り組み

1. 新規漁業就業者の確保に向けた取り組み

1. 国内人材確保に向けた支援

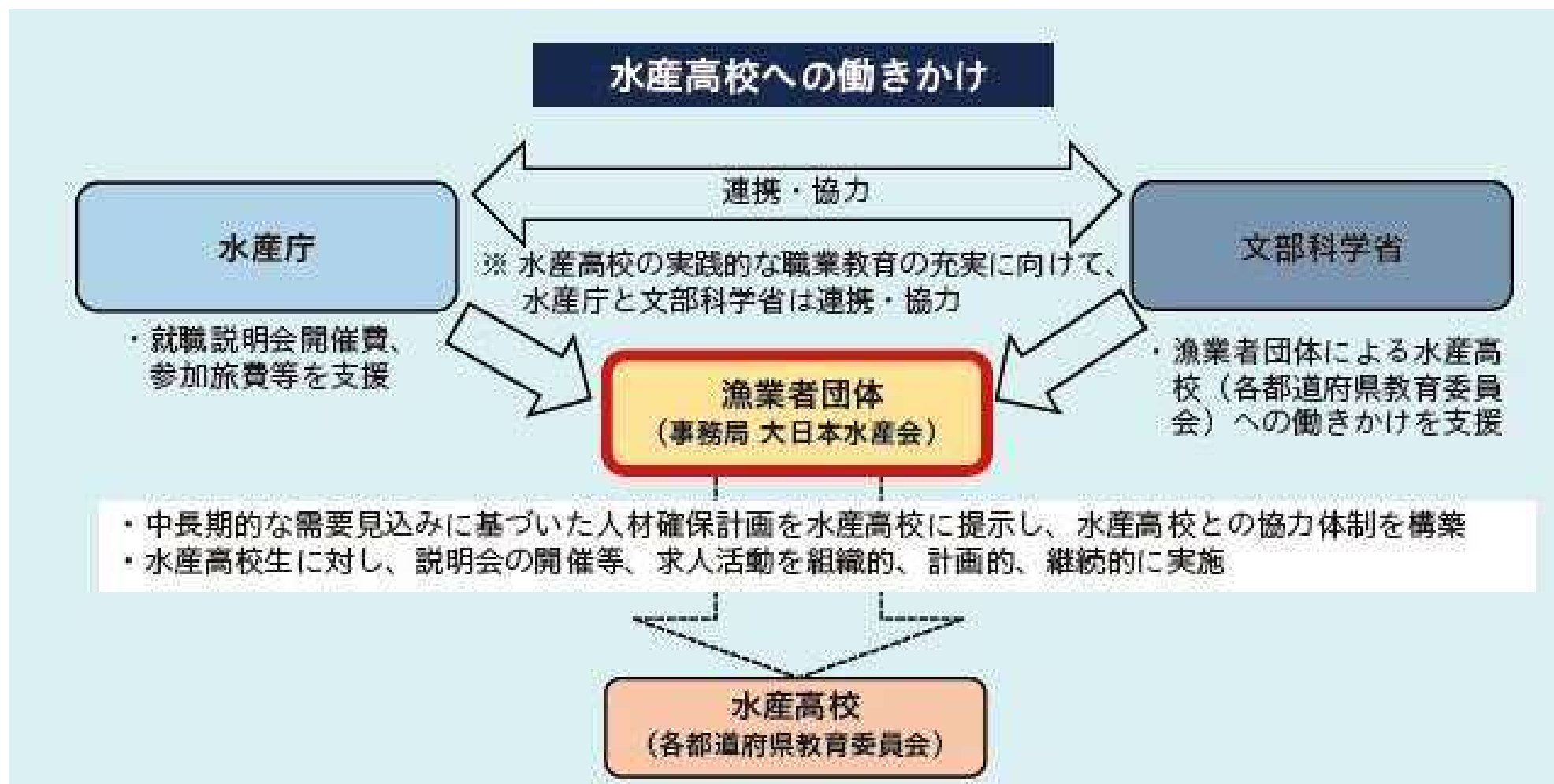


2. 海技資格取得に必要な乗船履歴を短期に取得するコースの運営等を支援



(図表: 令和4年度版水産白書より)

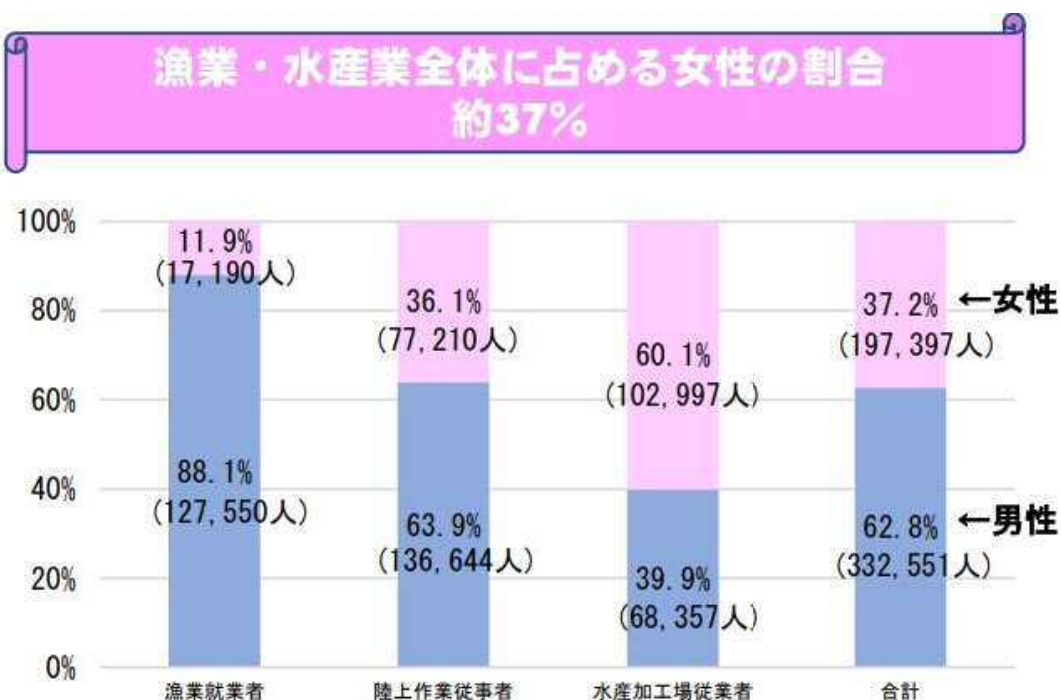
【事例】漁船乗組員確保要請プロジェクトによる水産高校への働きかけ



（図表：令和4年度版水産白書より）

2. 女性の活躍の推進①

- 就業者に占める女性の割合は約11%
- 水揚げ後の陸上作業では約36%、水産加工業では約60%



資料：農林水産省「漁業就業動向調査（平成29（2017）年）」（漁業就業者）及び「2013年漁業センサス」（陸上作業従事者及び水産加工場従事者）に基づき水産庁作成

2. 女性の活躍の推進②

- 漁業経営や漁村の意思決定に参画する機会はいまだ限定的
- 漁業における正組合員割合5.2%、役員は全体の0.5%

	女性正組合員数	女性役員数
平成23（2011）年	9,907人（5.8%）	39人（0.4%）
24（2012）	9,436人（5.6%）	37人（0.4%）
25（2013）	8,363人（5.4%）	44人（0.5%）
26（2014）	8,077人（5.4%）	44人（0.5%）
27（2015）	8,071人（5.6%）	50人（0.5%）
28（2016）	7,971人（5.7%）	50人（0.5%）
29（2017）	7,679人（5.7%）	51人（0.5%）
30（2018）	7,158人（5.5%）	47人（0.5%）
令和元（2019）	7,164人（5.7%）	38人（0.4%）
2（2020）	6,296人（5.2%）	39人（0.5%）

資料：農林水産省「水産業協同組合統計表」

2. 女性の活躍の推進③



海の宝！／

水産女子の元気プロジェクトとは…

水産業界で輝く女性たちが繋がり、新たな価値を創り出し、それを伝える活動を応援することで、100年先も豊かな水産業界を目指すプロジェクトです。



繋がる

- ・全国のメンバーと交流
- ・勉強会開催
- ・悩みの共有



伝える

- ・活動紹介
- ・SNS発信
- ・講演活動
- ・イベント参加



創る

- ・企業やPJメンバーとのコラボ
- ・女性目線での商品開発
- ・イベント等企画

- ✓水産業界における女性の存在感を高める
- ✓「水産業界」の魅力を高める
- ✓女性の力で水産業界をもっと元気にする

3. 外国人労働をめぐる動向

○ 遠洋漁業

令和3年12月末現在、4,187人の外国人乗組員がマルシップ方式により我が国漁船に乗り組んでいる

○ 新たに創設された在留資格

「特定技能」の漁業分野(漁業、養殖業)および飲食料品製造業分野(水産加工業含む)において平成31年4月以降、一定の基準を満たした外国人の受け入れ開始

○ 外国人技能実習制度

漁船漁業、養殖業における10種の作業および水産加工食品製造業、水産練り製品製造業における10種の作業で実施

4. 漁業労働環境の改善

- 漁業における災害発生率は陸上における全産業の平均の5倍
- 労働環境の改善に向けた取り組みが進んでいる



(単位：千人率)

	平成30 (2018)	令和元 (2019)	2年度 (2020)
船員 (全船種)	8.4	7.8	7.8
漁船	12.7	11.6	11.5
一般船舶	5.6	5.5	6.4
陸上労働者 (全産業)	2.3	2.2	2.3
林業	22.4	20.8	25.5
鉱業	10.7	10.2	10.0
運輸業 (陸上貨物)	8.9	8.5	8.9
建設業	4.5	4.5	4.5

(図表：令和4年度版水産白書より)

5. スマート水産業の推進



(図表:令和4
年度版水産
白書より)

Ⅲ. 安心して暮らせる漁村づくり

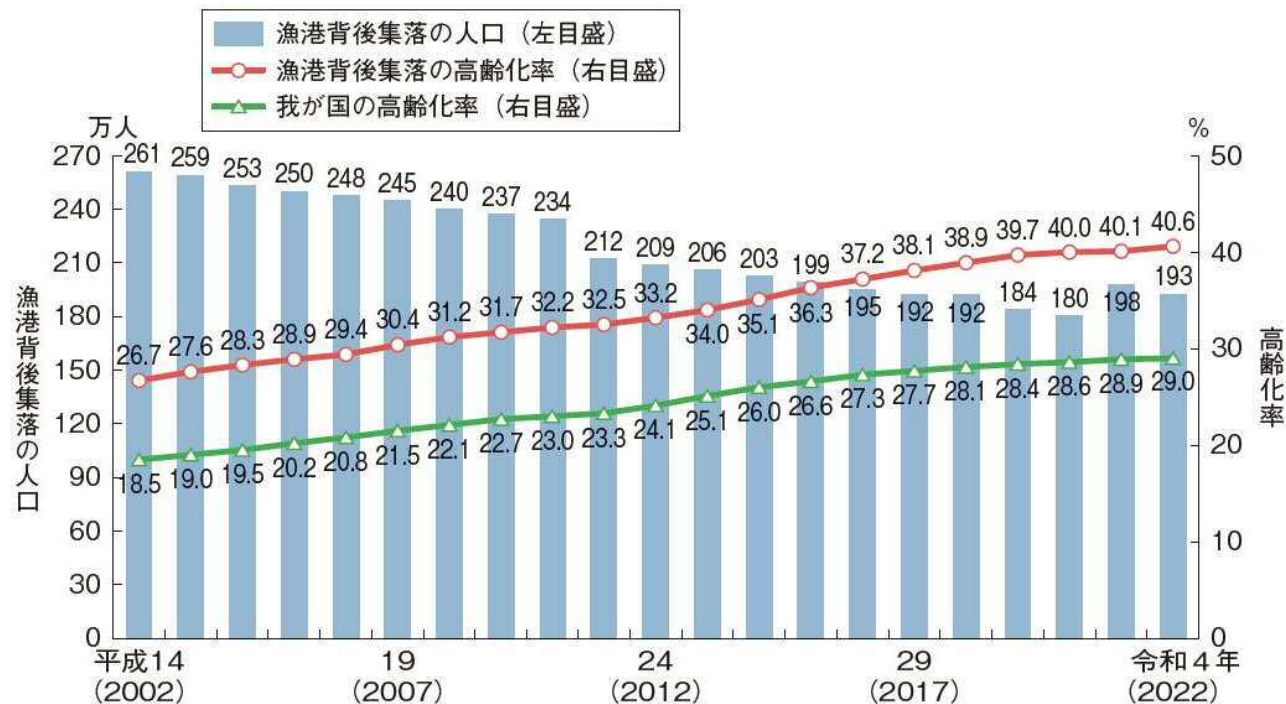
1. 漁村の現状

〈漁港背後集落人口は193万人〉

○漁業集落のうち漁港の背後に位置する漁港背後集落の状況をみると、離島地域にあるものが約18%、半島地域にあるものが約31%。

○このような立地条件にある漁村では、人口は減少傾向にある。令和4年3月末時点の漁港背後集落人口や193万人となった。高齢化率は全国平均を約12ポイント上回る40.6%となっている。

漁港背後集落総数	離島地域・半島地域・過疎地域のいずれかに指定されている地域		
	うち離島地域	うち半島地域	うち過疎地域
4,402 (100%)	783 (17.8%)	1,367 (31.1%)	3,105 (70.5%)



(図表: 令和4年度版水産白書より)

2. 水産業・漁村が有する多面的機能



資料：日本学術会議答申を踏まえて農林水産省で作成（水産業・漁村関係のみ抜粋）

3. 安心して暮らせる安全な漁村づくり

○ 漁港、漁村における防災対策の強化

- ・ 自然災害への備え
- ・ 災害発生時の円滑な初動対応

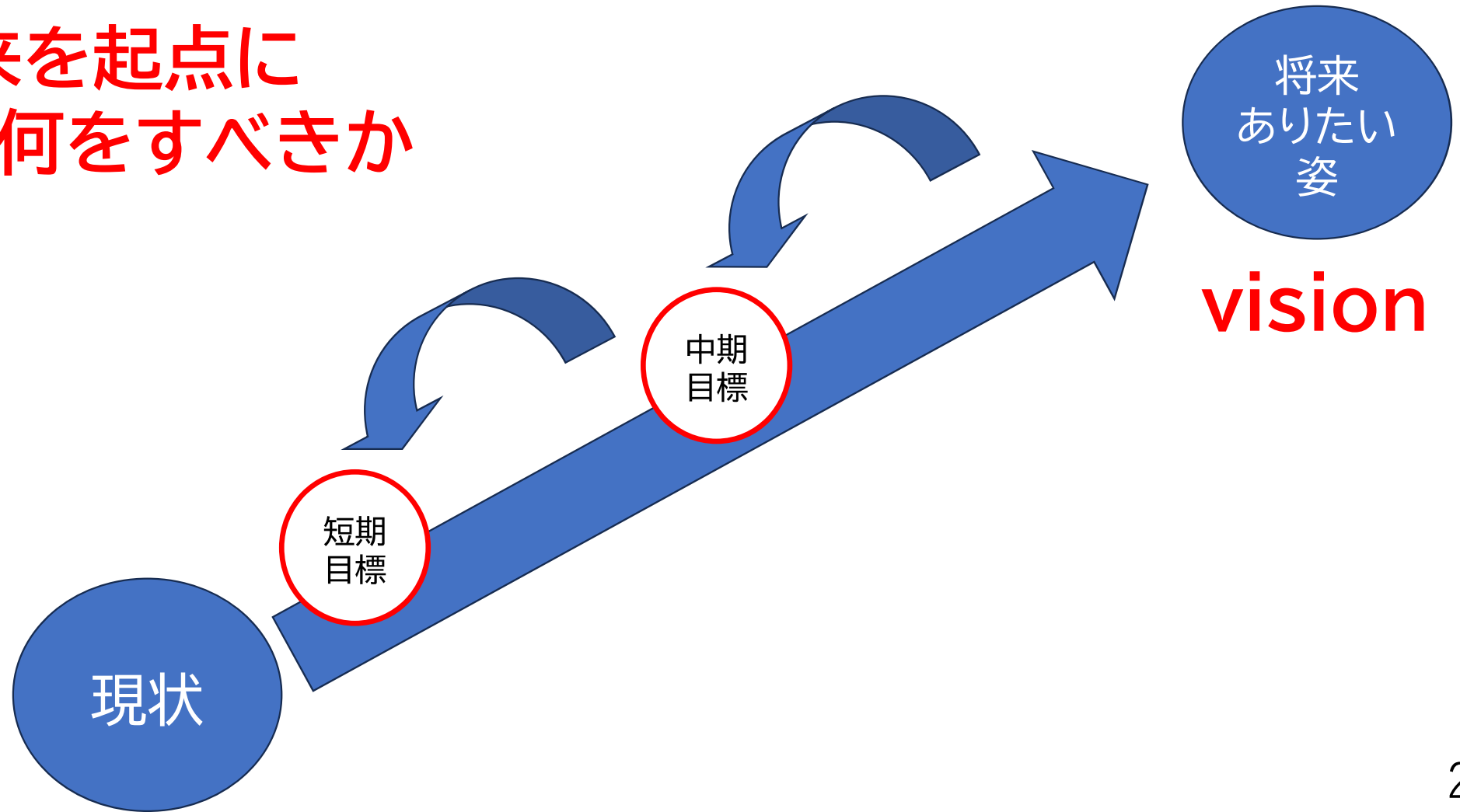
○ 漁村の活性化

- ・ 海や漁村に関する地域資源を活かした「海業」
- ・ 伝統的な生活体験や漁村地域の人々との交流を楽しむ「渚泊」

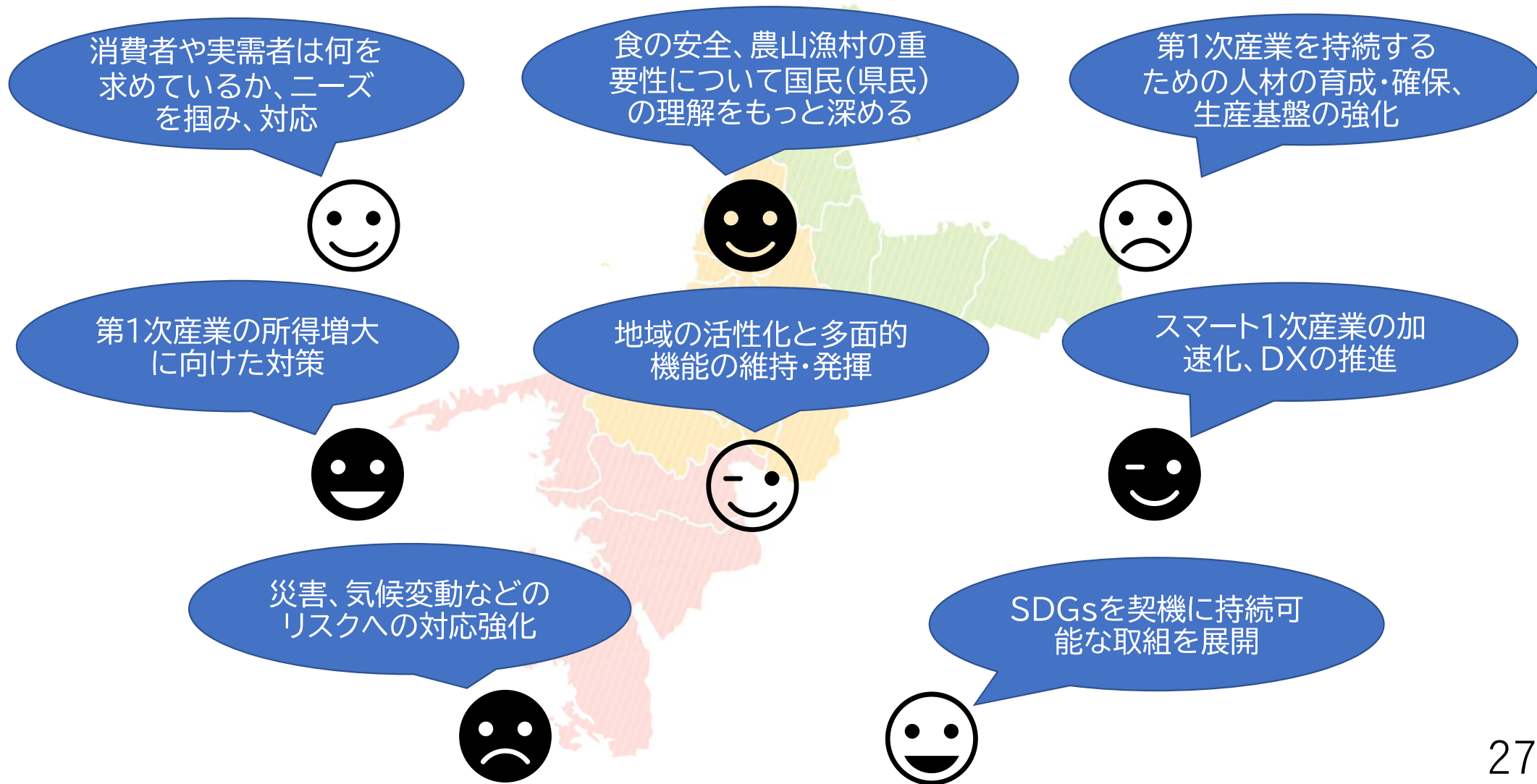
IV. 次世代への継承とビジョン

1. 将来ありたい姿から今を考える(バックキャストイング)

将来を起点に
今、何をすべきか



2. これからの取り組み課題



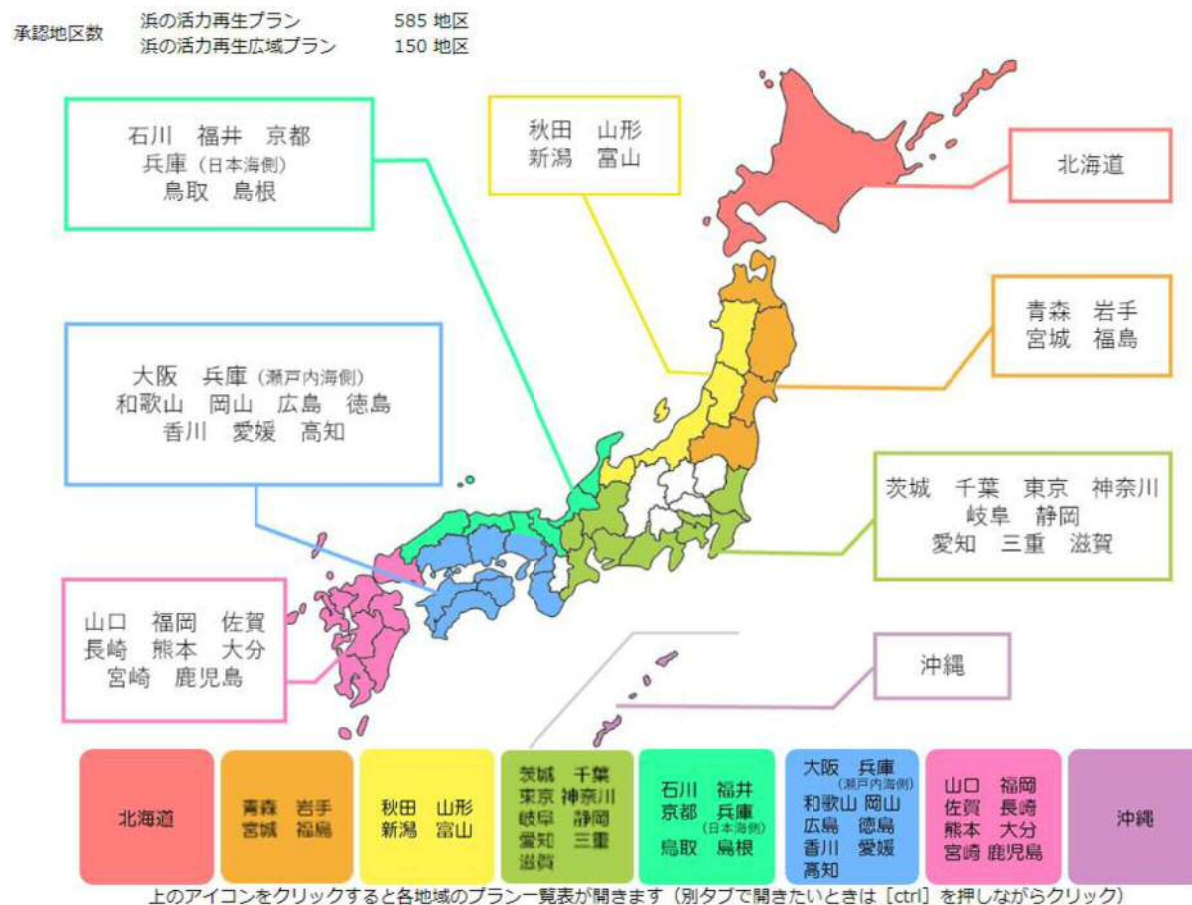
3. わたしたちの使命は？

Mission(使命)

安心して暮らせる地域社会を次世代につなぐ

4. ビジョンは具体的に、明確な言葉で

全国の「浜の活力再生プラン」及び「浜の活力再生広域プラン」の策定状況



浜プラン紹介動画

越前地区（福井県）



対馬地区（美津島町漁協）（長崎県）



[浜の活力を取り戻そう：水産庁 \(maff.go.jp\)](http://maff.go.jp) HP参照

V. まとめ

1. おわりに(次世代へつなぐために重要なこと)

- 各地域や経営体が抱える課題に適切に対応していくためには、地域の漁業者・関係者が協議し、地域の実情に即した具体的なビジョンを持ち、行動に移していくことが重要
- 次世代に豊かな一次産業、地域社会をつないでいくことが私たちの使命
- 自分の生きている時代だから、一人ひとりに必ず責任がある(誰かのせいではない)
- 今世の中で起きていることを学び、真理を追究して自分なりの答えを出すことが大事

ご清聴ありがとうございました

第22回「えひめ水産業WEBセミナー」

セミナー閉会

本日は、ご参加・ご視聴頂きまして誠にありがとうございました。

次回セミナーのご案内 日 時：令和6年1月16日（火）15：00～16：30

テーマ：「水産物の消費拡大について」

講師：中小企業診断士 折戸 裕行 氏

セミナーは、愛媛県信漁連ホームページ（オンラインセミナー）からお申込み頂けます。

皆様のご参加をお待ちしております。

（主催：愛媛県信用漁業協同組合連合会）